

佐渡人物記・抄

JJ1SXA/池

またまた、我が故郷佐渡ヶ島の話です、かつて配流(島流し)の地であった佐渡には、多くの著名な政治犯や思想犯が流されましたが、時の政争に敗れた政治犯や思想犯といった人たちがほとんどでした。有名なのは、順徳上皇、日蓮聖人、日野資朝、世阿弥とかがいます。

映画やドラマでお馴染みの北町奉行、遠山の金さん、「遠島申しつくる」と、死刑の次の極刑である、遠島の判決が下される場面で「遠島」とは、何処へ流されるのか？

江戸幕府は、罪人を主に伊豆七島に送りました、罪人は、その住人となり終生帰ってこられなかった者、或いは恩赦で江戸の地を踏むことが出来た者、色々有ったようですが、当然終生帰ることを許されなかった人達の子孫は残りました。

佐渡への遠島は、そういう罪人はいなかった、唯一、佐渡金山の人足として、江戸の無宿者を狩り集めてきたが、彼等は、厳しい監視のもと劣悪の環境で目いっぱい働かされ、ほとんどが早死にし、当然子孫は残ることは無かった。

だが、佐渡の流人は、当時の貴族や文化人だったので、様々な都の文化が持ち込まれたのです。

また、佐渡は、多くの思想家や芸術家を生みだしてきた土地でもあります。

地理学者の「柴田収蔵」、医学者・語学者の「司馬凌海」、日本画家の「土田麦僊」、評論家・哲学者の「土田杏村」(麦僊と杏村は兄弟)、思想家の「北一輝」(別記事で書いています)、文芸評論家の「青野季吉」、蠟型鑄金作家の「佐々木象堂」等の人達、本当に多士済々です。

佐渡の人がこれ等の人を知っているかと言うと、年配者の大部分が知らないと答えるのではないかと思います、小学校はともあれ、私の中学・高校時代に教わった記憶は皆無です。

昭和20年代では、まだ戦後の教育は確立せず、戦前の教育からの脱却に試行錯誤の時代、文部省(当時)の教育方針を守ることに精一杯、郷土史をゆっくり教える余裕など無かったのでしょう、私も、こういう人達の名前を知るのはずっと後のことでしたが、皆さん、その道では超一流の有名人達です。

「新訂坤輿略全図」という卵形地図を出版した柴田収蔵は、この地図で、日本では始めて「日本海」の標記を記入したようです、また、笑ってしまいますが、パリやロンドン等の地名に混じり、自分の出身地、シュククネギ(宿根木村…現佐渡市宿根木)を記載しています、日本の片隅にある村の名前を入れるなど一寸洒落ています、幕末に佐渡が生んだ異色の地理学者です。

二・二六事件の関連者として、本来は軍人に適用される「叛乱罪」で銃殺刑になった、北一輝のことは、別記事にしましたが、佐渡の大先輩達は凄い！